

南病棟 5 階

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 糖尿病・内分泌・栄養内科)

1. 看護単位の概要

病 床 数 47 床

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 29 床 糖尿病・内分泌・栄養内科 15 床 共通 3 床

耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来（がん診療部：頭頸部含む）

2. 病棟の特徴

1) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

聴覚障害に対する鼓室形成術及び人工内耳の埋め込み術、突発性難聴・顔面神経麻痺に対するステロイド治療や高圧酸素療法、副鼻腔炎に対する内視鏡手術、扁桃炎に対する手術、また「頭頸部外科」といわれる頭頸部癌に対する外科的切除、放射線治療、化学療法、またターミナル期も含めた緩和ケア、さらに開口障害・発声などの機能障害に対するリハビリテーションも行っている。

「頭頸部」は頭部から頸部に位置する器官で、耳、鼻、副鼻腔、口腔（唇、舌、口腔底、顎、歯肉、頬粘膜、硬口蓋）、咽頭、喉頭、甲状腺、副甲状腺、耳下腺、頸部リンパ節が主な対象となり、せまい範囲の中に多くの器官があり、機能も様々である。

頭頸部は呼吸・食事（咀嚼・嚥下）など、人間が生きる上で必要な機能、さらに発声、味覚、聴覚など社会生活を送る上で重要な機能が集中している。この部分に障害が起けると直接 QOL に影響するため、そのため診断から治療前の外来、入院後の治療期間、退院後の外来とすべてにおいて看護師の果たす役割が重要である。

2) 糖尿病・内分泌・栄養内科

糖尿病は、インスリンの相対的作用不足により慢性的な高血糖が持続している状態である。その高血糖が引き起こす網膜症・腎症・神経障害や動脈硬化性疾患等の合併症の発展・進展を予防し、健常な人と変わらない QOL を維持することが治療の目標である。看護師は、治療方針に沿って、内服管理、血糖測定、インスリン自己注射、低血糖対応、フットケアなどの指導・教育を行う。また、糖尿病医療の進歩によって、インスリンポンプ療法、持続血糖モニタリング、膵島移植等の新しい治療法にも関わっている。医師・管理栄養士・薬剤師・運動療法士等、他職種を協働し、患者のセルフケア能力を高められるよう援助している。

内分泌疾患は、全身の多くの器官から分泌されるホルモンの異常、つまり生体内情報伝達システムが障害されている状態であり、その病態は全身に及ぶこともある。看護師は、全身を観察しつつ、安心・安全・安楽に入院生活を送れるように援助することが必要である。